



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ

オール鹿児島ロケである本作品のほとんどは本市での撮影です。私たちが普段目にする風景や、おなじみのお店などが映画の至る所に散りばめられています。



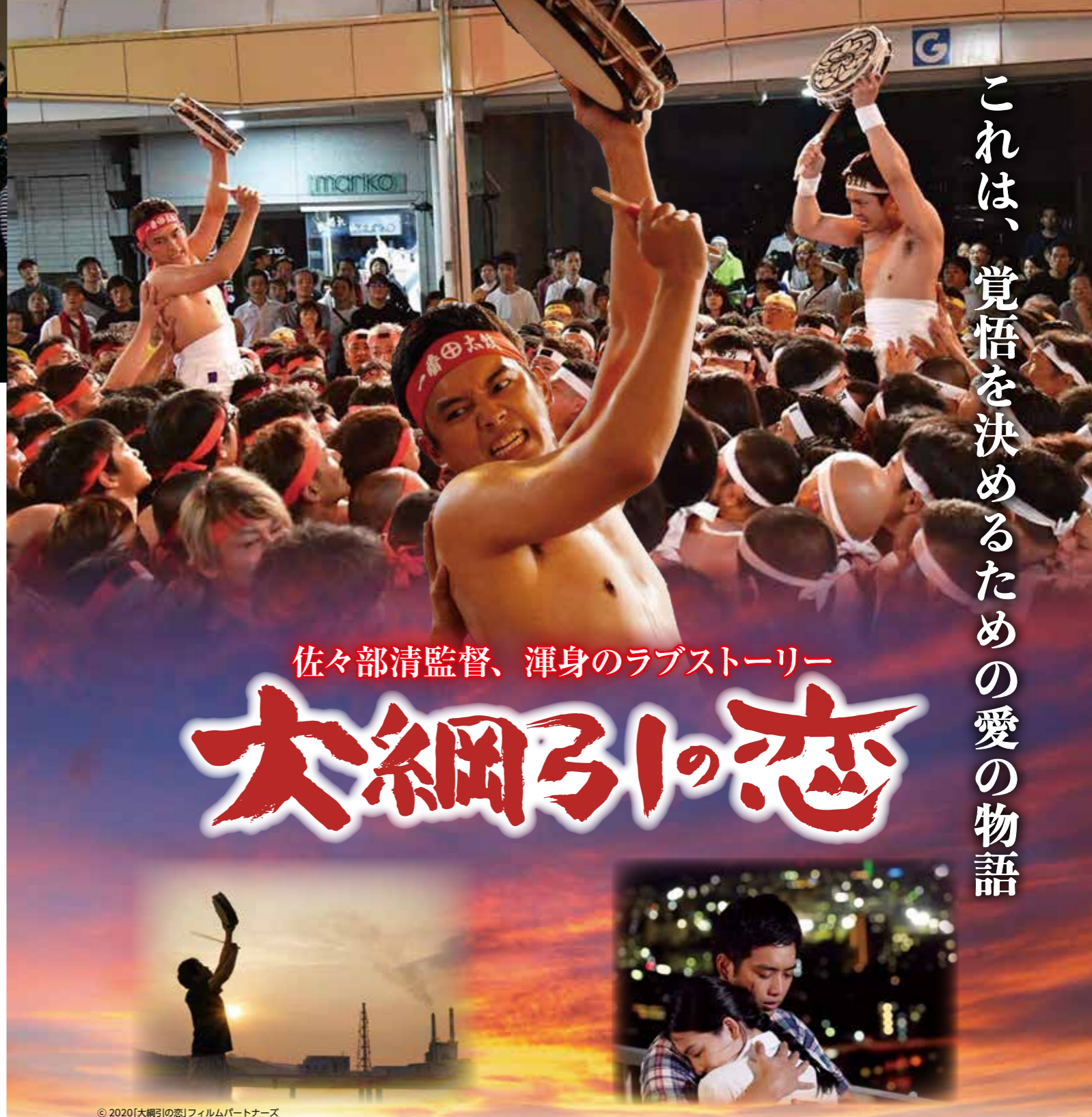
© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ

これは、覚悟を決めるための愛の物語

佐々部清監督、渾身のラブストーリー

# 大綱引の恋

二人の出会いから物語が始まる  
「出会いとは?」「結婚とは?」「家族とは?」「覚悟とは?」

この映画は、不器用ながら愛を育んでいく主人公の武志とジヒョンの切ない恋と本市で420年以上継承される川内大綱引に実際参加した人々のエピソードを、フィクションとしての家族の物語の中に大綱引の歴史を彩ってきた実話として織り込み、描かれています。

この映画の最大の見せ場となる大綱引のシーンでは、国道3号を封鎖し、エキストラ400〜500人で撮影。上方・下方を務めた三浦貴大さん、中村優一さん(福元弦太郎役)は撮影に入る前から太鼓をたく練習をし、本番では周りも認める雄姿を見せています。本番さながらの熱量で演じられている熱気あふれるシーンをぜひ、スクリーンで体感してみてください。



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ

大綱引で敵対する兄・武志と恋人・弦太郎の応援で揺れ動く武志の妹・敦子



© 2020「大綱引の恋」フィルムパートナーズ

有馬武志(三浦貴大)は35歳にして奥手の独身。とび職の親方であり、大綱引の師匠でもある父・寛志(西田聖志郎)から常々「早う嫁をもらうて、しっかりとした跡継ぎになれ」とうるさく言われている。とある日、ふとした事件から韓国人女性研修医ジヒョン(知英)と出会い、次第に心を通わせるようになる。その頃有馬家では、母・文子(石野真子)が定年退職を宣言し女将も家事も放棄したため、妹・敦子(比嘉愛未)も含め家族の皆が四苦八苦する。一方、年に一度の一大行事「大綱引」が迫るなか、武志はジヒョンから「あと2週間で帰国するの」と告げられる。

大綱引を取り巻き、さまざまな愛の形が描かれる――